

木造大日如来坐像

もくぞうだいにちによらいざぞう

国指定

所在地：味間奥



本堂中尊の大日如来坐像で、上品上生の印相を結び、その手に薬壺を持つ。指は後補であり、もとは法界定印を結ぶ胎藏界の大日如来であったと見られる。頭上には透彫りの宝冠を付け、両腕に腕釧を彫出する。表情はやや厳しいが、体部は量感豊かで温和な雰囲気醸し出している。

透彫りの光背、葺寄式の台座とともに平安時代後期の作品として貴重である。

大国寺所在。

ヒノキ造、漆箔塗り。

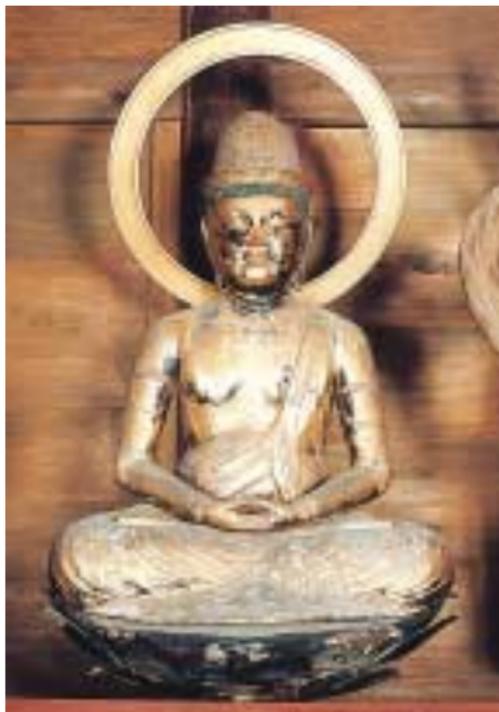
像高130cm。

木造大日如来坐像

もくぞうだいにちによらいざぞう

国指定

所在地：味間奥



唐草文が描かれた大きな宝冠を冠し、膝上で法界定印を結ぶ。胎蔵界の大日如来像である。

上述の大日如来像と作風が共通し、胸部から腹部にかけての表現が近似している。腕鉏もすそや裳裾の彫りが浅くかつ柔らかく、全体に繊細な表現となっている。表情も幾分穏やかさが感じられることから、上述の大日如来坐像からは制作年代が少し下り、平安時代後期でも院政期の頃の作品と見られる。

大国寺所在。

ヒノキ造。像高117cm。